

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374200257		
法人名	社会福祉法人 仁至会		
事業所名	グループホーム・ルミナス大府		
所在地	愛知県大府市半月町3丁目278番地		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	平成29年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&UgyosyoCd=2374200257-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成29年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節ごとの行事や外出で季節感を感じて頂き、たくさんの刺激を受けて頂けるように支援しています。家族同伴日帰りバス旅行も毎年実施しています。笑いの絶えないホームでありたいと思っています。ホームでは犬を飼い、一緒に散歩へ出かけたり触れ合うこともできます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、「あいち健康の森」の小高い丘の一角にある老人福祉施設が立ち並ぶ中に位置している。木造の平屋建てで、落ち着いた佇まいとなっている。事業所の周りは、田畑が広がり静かでのんびりした環境であり、同法人の介護老人保健施設と隣接をしている。職員は「家庭的で住み心地よい」、「無理強いさせない」の理念を基本として、笑顔をやさず家族の一員として生活を支えていくように努めている。居間の真ん中に、皆が一緒に囲める大きな円卓が置いてあり、職員と一緒におやつや食事づくりをしたり、季節の作品を作ったりして、皆の笑顔や心が集まる場となっている。愛犬の「もー太」も一緒に暮らし、心と癒しの役目を担っている。四季を感じながら日々の散歩を楽しんだり、菜園で収穫した野菜などが食卓を彩ることもある。四季の花見や家族会で一緒に日帰り旅行に出かけたりして、暮らしの中に楽しみを取り入れることが、生活の励みとなっている。入居者は、天窓から明るい陽が差し込むコーナーで、ソファーに腰かけ談笑したりテレビを見てのんびりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念とし6つの項目を掲げ、スタッフルームの出入り口には確認するよう掲示してある。	事業所の運営理念及び6項目の介護理念は、皆が目にするスタッフルームの出入り口に掲示し、共有と確認、実践が出来るようにしている。スタッフ会議でも取り上げ内容の確認や評価について話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日1～2回の買い物と、週2回の喫茶(老健へ地域ボラの方がみえる)地域の行事は必ず参加。ホームへも詩吟・オカリナボラや、片付けボラ、傾聴ボラとの交流がある。	町内会へ加入している。配布される地域の便りや運営推進会議から地域の情報を得て地域行事に積極的に参加している。地区の総会に出席し認知症についての啓蒙をしている。毎日の買い物や散歩、週2回の喫茶店通いなどで地域の人と触れ合う機会を作っている。保育専門学校の実習生を受け入れたり、各種地域ボランティアとの交流も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、実習の受入を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議を開催し、今後の活動、今取り組んでいる事等報告し、情報交換や意見を頂いている。	運営推進会議は入居者や家族の代表、民生委員、包括支援センター、認知症知見者が出席して2か月に1回開催されている。そのうち2回は家族会を兼ねており全員参加で行われている。施設の現状報告を行い出席者から意見や要望を聞き、協議したりカンファレンスで話し合っ運営やサービス向上に活かしている。運営推進会議の記録は玄関に置いてある。	運営推進会議の出席は、入居者や家族は代表者のみとなっている。記録は誰でも手に取って見られるように玄関に置かれているが見られていない現状がある。家族全員に配布し施設の現状を知ってもらうと共に、誰でもいつでも出席可能なことを周知し、更に推進会議が活きた取り組みになることを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の機会等に、市町村担当者へ利用者の暮らしぶり等伝えている。吉田地区の総会へ参加し、GHの紹介をしたり、25年度から吉田地区地域福祉ネットワークができ、参加している。	認定更新時には市の担当窓口を訪れ、施設の現状を伝えている。地区町内会の総会に出席して認知症について啓蒙している。地域福祉ネットワークに参加し徘徊等に協力したり、市主催の研修会に参加し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は夜間以外はせず、スタッフ会議では自分のケアを振り返る場を作り、全員に発言してもらっている。	マニュアルや拘束についての指針に基づいて、スタッフ会議で自分のケアを振り返る場を作っている。全員の発言の中から事例を引き出して話し合い拘束に対する意識を深めている。玄関の施錠は防犯上夜間のみ行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の声掛けや対応を見ながら本人と話し、拘束同様全員に発言してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会は実施出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に文章を一読して頂き、その後口頭にて説明し、十分納得して頂いている。解約、改定時も同様、納得して頂き、同意書にサインして頂いている。		
#	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉は必ずカルテに残し、うやむやにならない様にしている。面会時、家族懇談会時には話しやすい雰囲気を作り、出された意見はスタッフ会議等で話し合いを行っている。	入居者からは日々の暮らしの中で思いや要望を聞き記録を残している。家族からは面会時や家族懇談会で話しやすい雰囲気作りに留意しながら意見や要望を聞いている。出された意見や要望は記録し、スタッフ会議で検討して運営やサービス向上に反映させている。	
#	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は代表者へホーム職員の意見を伝え、ホーム内では月に1度スタッフ会議を行い意見を聞く様にしている。日頃からのコミュニケーションを大切にしている。	管理者は日頃から職場のコミュニケーションを大切にしている。業務中や申し送り時、月1回のスタッフ会議などで職員の意見や提案を聞き、話し合ってサービス向上や運営に反映させている。代表者へも職員の意見や提案は伝えている。	
#		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの意見はしっかり聞き、取り入れ、個々でのアイデアが生かせる様に努めている。		
#		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修への参加、施設内勉強会、研究発表等へも参加している。		
#		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は近隣施設と連絡をとり、意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
#		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームへ見学へ来て頂き、面談を行う(こちらから、伺う事もある)。本人の不安が大きい場合は体験入居から慣れて頂く。		
#		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまで、家族の苦労や、今までのサービスの利用状況等をゆっくり聞き、不安や求めている事を理解し、信頼関係を作っている。		
#		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、必要なサービスに繋げる様にしている。また、関連施設との連携をとり対応している。		
#		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と一緒に楽しみ、お互いに助け合い生活している。		
#		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族懇談会では職員の思いを伝えるようにし、家族の思いを受止め、協力しあえる関係を作っている。		
#	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達、近所の人々がホームへ気軽に遊びに来てもらえるようにし、年賀状や暑中見舞い等を書いたり関係が途切れない様に支援している。	家族と一緒に近所の人や友人が遊びに来たり、同法人内の喫茶店や地域のお寺参り、日々の買い物に行くスーパーなども馴染みの場所となっている。年賀状や暑中見舞いなど季節の挨拶も継続して、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援をしている。	
#		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が気軽に話せるよう話題を提供したり、レクリエーション等を通じてご利用者同士の関わりが持てるよう努めている。また利用者の関係性について情報を全職員が共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
#		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方の話を傾聴したり、季節のハガキを出したりし継続的な付き合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
#	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり合いの声掛け、把握に努めている。言葉や表情等から利用者の思いをくみ取り、希望に添えるようにしている	日々の関わり合いの中で、一人一人の思いや意向を把握するように努めている。入居者同士の会話の中から思いを知ることもある。言葉や表情からくみ取ったり、困難な場合は家族の協力を得ることもある。本人本位に検討をして希望に添えるように支援に努めている。	
#		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から情報提供を頂いている。生活歴を記入し頂いている。		
#		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の個性、身体能力等日々の生活を通じ把握できるように努め、その人らしく暮らして頂ける様に支援している。		
#	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で思いを聞き、反映した計画を作成している。	本人からは日々の関わりの中で、家族からは面会時等に思いや要望を聞いている。日々の経過記録やカンファレンスを基に3か月に1回モニタリングをし、サービス担当者会議を開いて現状に即した介護計画作成している。状況により随時の見直しも行っている。	
#		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にカルテを記入し、勤務の始まりには申し送りを行っている。		
#		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況に応じて、通院等の支援。家族の要望に応じて家族の行事(冠婚葬祭)への付き添いに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
#		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	詩吟やオカリナボランティアの方との交流。運営推進委員会をきっかけに民生委員の方との交流ができ、地域の情報を早くに把握できている。		
#	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、近くの開業医の医師が2週間に1度訪問診療に来て下さっている事を説明し、納得した上で主治医となってもらっている。状態に合わせた受診、往診、電話等での情報交換、定期検査を行っている。	入居時にかかりつけ医か協力医か希望を聞いている。ホームの受診体制を説明し納得を得たうえで協力医が主治医となっている。耳鼻科・眼科等の専門医は家族対応となっているが、職員が情報伝達を受け記録し、申し送り周知しケアにつなげている。2週間に1回の往診と、電話での随時の情報交換や往診にも対応できおり、適切な医療を受けられるよう支援している。	
#		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。早期発見、早期対応に努めている。看護師といつでも連絡がとれるようになっている。		
#		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して過せるよう医療機関へ情報提供している。入院によるダメージを極力防ぐ為、家族と一緒に医師と話をする機会を持ち、ホーム内での対応可能な段階なるべく早く退院できるようアプローチしている。		
#	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を作成し、ホームで出来ることを明確にし、理解して頂き、本人、家族、主治医とご利用者の状態に合わせ、幾度も話し合いを重ね、その時の最善を尽くす様に努めている。	「重度化した場合の対応に関する指針」が作成されており、入居時に本人や家族に説明している。状況変化に合わせて早い段階から何度も話し合い、関係者間で情報を共有しながら、本人や家族の不安がないよう最善を尽くす支援に努めている。	
#		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、又は看護師の指導の下、救急手当てや蘇生術の勉強会を実施し、全ての職員が対応できるようにしている。		
#	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年3回(1回は老健合同)のホーム全体での避難訓練を行っている。消防署の協力で避難訓練、消火器の使い方等の訓練を年1回行っている。	マニュアルを作成し、4か月ごとに防災避難訓練を行っている。年1回は消防署の協力を得て避難訓練や消火器の使い方の訓練を行い講評を得て反省・検討をし次の訓練に活かしている。3日分の備蓄をしている。	備蓄のチェックリストを作成して職員全員が周知するとともに、無駄のない循環が望まれる。近隣地域や施設との協力体制を築くことも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
#	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議で自分の言葉がけについて振り返り、話し合い、誇りやプライバシーを損ねない言葉がけができるよう努めている。日頃はスタッフ同士で注意し合うようにしている。	入居者の尊厳や誇り、プライバシーを損ねない言葉使いについて常に振り返り話し合っている。誰が聞いても不快にならない言葉かけや入居者の表情を見て、適切な声掛けであったか振り返ることもある。日常使う言葉には留意し、スタッフ同士で注意し合っている。	
#		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と過す時間を通して、利用者の要望、関心、嗜好を見極め、少しでも本人で自己決定できる様な場面を作るよう努めている。		
#		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本1日の流れは大まかにあるが、細かいスケジュールは無く、決まった過し方はしていない。その日その日をご利用者のペースで合わせて過ごすようにしている。		
#		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選び着て頂いている。季節感等を考え、声掛けをしている。		
#	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の会話で利用者が何を食いたいかに聞いておき、メニューに取り入れたりしている。調理から片付けまで一緒にやっている。食事は同じテーブルを囲んで楽しめる様になっている。	日々の会話の中から希望の食事を把握しメニューに取り入れている。入居者と買い物に行き、調理から片付けまで入居者の能力に応じて一緒に行っている。職員も同じテーブルに着き、たのしい食事を共にしている。菜園で取れた野菜が食卓を飾ったり手作りおやつを楽しんでいる。行事食や外食、誕生会など食事が楽しめる支援に努めている。	
#		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と1日の摂取量を把握している。なるべくその方に合った量を準備し、固さや形状も考えている。必要な場合は水分チェックも行っている。		
#		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けを行い、本人に合った対応(見守り・介助)をしている。就寝時には全員イソジンでのうがいをし、義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
#	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合った時間を考えトイレ誘導し、トイレで排泄出来るよう支援している。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツやパット類も本人に合わせて使用している。	自立支援に向けて、トイレでの排泄を大切にしている。個々の生活習慣からその人に合った時間を把握しトイレ誘導をしている。リハビリパンツやパット類も本人に合わせてものを使用している。便秘予防にも留意し食べ物や水分、運動など取り入れながら自然排便に取り組んでいる。	
#		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食材を心掛けて使用したり、乳製品を取り入れたり、水分量にも気を付けている。		
#	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	冬は(乾燥がひどい為)入浴を1日おきとしているが、希望者には毎日入浴して頂いている。入浴の長さ、お湯の温度等本人の希望に合わせて入浴して頂いている。羞恥心等への配慮をしている。	冬季の入浴はヒートショックに注意して脱衣室や浴室を早めから温めている。一人一人の希望に応じて入浴時間や湯温、毎日の入浴にも応じている。湯の清潔に留意したり入浴剤や季節のゆづ湯やしょうぶ湯等も楽しみの一つとしている。入浴拒否の方には上手な誘い方を工夫している。羞恥心にも配慮している。	
#		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中なるべく体を動かすよう促し、生活リズムを整える様に努めている。寝付けない時には温かい飲み物を出したり、話を聞いたりし安心して気持ちよく眠れる様に支援している。		
#		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作り、職員が把握できる様にしている。薬に変化があった場合は個々のカルテに記入している。また申し送りノートにも記入し伝達している。服薬時にはその人に合った対応(手渡し・口の中へ)をし、必ず飲んだ事を確認し、チェックしている。		
#		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や嗜好品を把握しレクリエーションを行ったり、地域行事への参加ができるよう支援している。強制でなく、利用者が出来ることをして頂いている。		
#	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物には利用者も一緒に行っている。送迎バスを利用し、ホーム全員での外出をしたり、家族同伴日帰りバスツアーは毎年の恒例行事となっている。個別での外出や家族からの希望での外出にも付き添ったりしている。	毎日の買い物や愛犬「もー太」との散歩、喫茶帰りに回り道をしたりと天候さえよければ、日々自然に触れる生活をしている。家族同伴の日帰りバスツアーに出かけたり、四季折々の花見やいちご狩り等にも出かけている。個々の希望による外出や家族からの依頼で結婚式等に付き添っていく事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
#		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは基本的に預かっているが(何人かは自分でも持っている方もいる)、外出時には本人へ財布を渡し支払ってもらうが、無理強いはいしていない。		
#		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば聞き入れ対応している。携帯電話を利用している方もいる。年賀状、暑中見舞いは毎年出すよう支援している。		
#	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた飾り付けをしたりし落ち着いて過ごしていけるようにしている。玄関先には季節ごとの飾りを自分たちで作り、飾るようになっている。	明るく広い居間には天窓があり開放感がある。居間には中央に大きな丸テーブルが置かれ、皆の憩いの場であり、たのしい食卓ともなっている。ゆったりとしたソファも置かれ、それぞれがテレビを見たり会話を楽しんでいる。玄関先には季節の飾りつけがされている。清潔や臭い、湿・温度にも配慮して快適な共用空間作りがなされている。	
#		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	キッチンの円卓やリビングで、自由に過せるようになっている。死角になる位置にもベンチ型の場所を確保している。玄関にもイスがあり、利用者が座り、自分たちの作品を見たり、おしゃべりしたり出来る様になっている。		
#	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具等全て個人の物を持ち込んで頂いている。電話が引ける様になっていたり、仏壇を持って来たり、本人が居心地良く過ごせるようにしている。	居室には洋風と和風の部屋があり、家具や寝具など全てのものが個人の持ち物となっている。家族と相談しながら、使い慣れた家具や小物、写真、仏壇やぬいぐるみに囲まれ、自分なりの安心できる居室作りが工夫されている。	
#		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋に個人の名前、トイレやお風呂などにはわかりやすいよう表札をつけている。		